

令和2年度第6号(10月号)

農林高校だより

ホットな情報を知りたい場合は↓

「下高井農林高等学校」を検索

<http://www.nagano-c.ed.jp/nourinn/>

TEL 0269-82-3115 (代)

アグリサービス科動物科学コース 活動紹介

動物科学コースでは、動物の飼育管理や活用、循環型農業、人と動物との関わり、畜産加工などの研究を通して、動物の活用方法を広く学んでいます。

★「豚の肉質に関する研究」



ハーブを塗布した豚

ここ数年、継続して「豚の肉質に関する研究」に取り組んでいます。通常与える飼料に、炭やハーブ・出荷に向かないキノコなどを加え、食肉として出荷した後、各部位ごとの肉質を食味調査にて判定しています。今年度のハーブは、調査開始当初はカモミールを、途中からバジルに切り替えて研究を実施しました。また、ハーブは飼料に混ぜるだけでなく、液状にして皮膚に塗布した場合の効果も同時に調査しており、試験区は①通常飼料のみの区、②飼料にバジルを添加した区、③餌への添加及び皮膚への塗布をした区に分け、比較調査を行いました。現在、先生方に協力してもらい、肉の食感・においなどを評価してもらい、結果をまとめている最中です。

★「ハーブ類の飼料添加で肉用鶏の肉質変化を探る研究」

プロイラーへの飼料にハーブ類を添加すると、どのような結果になるのか疑問を持ったため、鶏においても肉質調査に取り組んでいます。なぜ、プロイラー（肉用鶏）にしたのかというと、出荷までの飼育期間が2ヶ月と短く、反復して研究ができるからです。まず1回目は通常飼料のみで飼育し、約2ヶ月後にと殺、食肉として冷凍保存をしました。2回目は、飼料にカモミール・バジル・ヨモギを混ぜて与え、同様に処理しました。この2種類の肉についても、先生方に食感やにおいなどを評価してもらい、1月に飯山市の「なちゅら」で開催する、課題研究発表会に向けて、結果をまとめています。



★地域交流について



本校で飼育している動物には「スクールZoo」としての役割もあります。実際、近くの幼稚園や保育園の園児が動物たちの様子を見に、ときどき散歩にきます。また、近隣小学校の遠足時には、見学地として利用いただいています。本年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から実施を見送りましたが、長年交流がある福祉施設の利用者さんへのアニマルセラピーも実施しています。このアニマルセラピーの取り組みは、例年は課題研究の研究テーマとしています。このように、「食」だけでなく「癒し」の面からも本校の動物は大活躍です。ちなみに、農林祭や中学生体験

入学で実施している「木曽馬の乗馬体験」は毎年好評をいただいています。

★木曽馬、本校にいる動物について

木曽地域を中心に飼育されている日本在来種の木曽種（木曽馬）の中には、長野県の天然記念物に指定されている馬もいます。かつて日本に多数飼育されていた在来馬も、現在では日本に8種類しか残っておらず、本州では木曽馬しか残っていません。平成8年に「馬鈴号」が本校に導入されました。木曽馬はおとなしく、人懐っこい性格なので、学校現場で生徒たちと関わる教材としても有効に活用されています。馬鈴は24歳（人間に換算すると約70歳）になります。馬鈴はこれまでに4頭の子どもを産み、豊風が本校に残っています。豊風も14歳（人間だと約45歳）です。木曽馬以外にも、和牛が2頭、豚2頭、卵鶏120羽、ウズラ30羽、合鴨5羽を学習教材として飼育しています。

